韓国の歴史教科書にみる近代日本像(2)

清　田　善　樹

한국 역사교과서에 나타난 근대 일본상(2)

기요따　요시끼

이 번은 3·1운동 때부터 광복까지의 시기를 대상으로 하는 중학교 국사교과서속의 일본에 관한 기사를 검토 하였다. 36년간 일본은 조선총독부를 통해서 과혹한 식민통치를 벼나갔다. 특히 태평양전쟁이 시작되자 일본은 조선에서 천연자원 뿐만 아니라인간마저 수탈하였다. 그런 사실이 있는데 일본청부는 패전이후 지금까지 모르는 체를하고 왔다. 최근 일본의 중학교 역사교과서에는 근대 일한 관계기사가 증가하고있지만 아직 충분하지 않다. 개국이후 일본이 왜 서양열강의 식민지가 안 되고 근대국가를 건설할 수 있었는지를 생각하면 한국사람들이 경험한 시련을 잊을 수가 없다.

受理日　1994年4月30日

本稿は前回の「韓国の歴史教科書にみる近代日本像(1)」(『岐阜教育大学紀要第二十七集)を受けて，1919年の3・1運動から独立運動の高揚を経て解放（光複）に至るまでの時期を扱っている。教科書の目次に従うと，「III. 民族独立運動の展開」という一章に当たる。

一. 独立運動の強化

1910年8月22日，所謂「日韓併合条約」が調印されたが，「併合」の事実が公表されたのは一週間後の8月29日のことであった。この日，ソウルの南方に位置しソウルを見下ろす南山には，日本軍が展開して大砲をソウル市街に向けて朝鮮人たちを威嚇していた。「日韓併合」（韓国では韓日合邦と表現する）以後の様子については「1．独立運動の強化」において，次のように概観されている。

国権を強奪された後，わが民族はこの地に設置された朝鮮総督府のために政治的に弾圧を受けただけでなく，経済的にも搾取された。

しかしわが民族は韓末の近代文化の発展過程において成長した民族意識を基に，民族の

自由と国権を回復するための独立運動を積極的に展開した。国内では日帝の弾圧と迫害を受けて秘密結社を通した独立運動を推進し，海外では独立運動の基盤を準備していた。

特に，満州と沿海州には独立運動の基地が建設され，わが民族が自治的に教育活動と軍事訓練を実施して民族の力量を増大させていった。(P111)

「日韓併合」以後，韓国は経済的・政治的な面で，日本から有形無形の搾取と圧迫を受けた。それに対して韓国人は国の内外において幅広く且つ粘り強く独立を勝ち取るための運動を展開していった。したがって，1910年から1945年の光復に至るまでの教科書の記述は，日本による植民地支配の過酷さを具体的に取り上げることよりも，国内と国外における独立運動を様々な面から記述することに力点が置かれている。特に，３・１運動はすべての運動の出発点として重視され，いろいろなところで言及されている。

Ⅲ－１「独立運動の強化」における学習上の課題設定は次のように，植民地化の過程，植民地統治の実態，国内の独立運動，国外における独立運動の４つの面からなされている。

学習問題

1．日帝はどんな方法でわが国を植民地化したのか。
2．日帝の植民統治と経済的収奪の様相はどのようなものであったか。
3．1910年代に国内における独立運動はどのように展開されたか。
4．国外での独立運動はどのような形態で推進されたか。

学習問題の１に対応する記述は，植民地統治政策と経済的収奪の面からなされている。朝鮮総督府による統治については，憲兵警察制，政治活動の禁止，官吏・教員の強圧的態度について述べられているが，この節の中では記述量はそんなに多くはない。「国権の被奪」「民族の試練」の二つの小見出しのもとで既述されている。

国 権 の 被 奪

わが民族は武力的威嚇の中で外交権を剥奪され，つづいて司法権と警察権までも順次奪われた。とうとう1910年８月には国権を強奪された。

国権の被奪によって，近代国家に発展していた韓民族の努力は無駄になり，長い歴史を経て成し遂げてきた文化創造の伝統が，一時的にではあるが，傷つけられた。

民 族 の 試 練

国権を奪われた後，わが民族は日帝が彼らの植民地支配のために設置した朝鮮総督府によって弾圧された。

朝鮮総督は行政，司法，軍事のすべての権限を握っていて，武力によって韓民族を弾圧するために憲兵警察制を実施した。

そして一般官吏にはもちろん，教員にまでも制服を着せ剣を付けるようにし，わが民族を威嚇し屈伏させようとした。

あらゆる政治活動は禁止され，集会，結社の自由も剝奪された。また，われわれの文字*1で書かれた新聞の発行も禁止された。教育においても，普通教育と技術教育の機会のほかには与えず，わが民族の成長と発展を疎外した。また，多くの愛国志士たちが日帝によって逮捕，投獄され，命を失いもした。(P112)

「民族の試練」のページには，「日帝によって逮捕，投獄され」，両手を前にして縛られ編み笠を被せられて「法廷に護送される愛国志士たち」の写真が掲載されている。続く「土地の収奪」「産業の侵奪」では，土地所有の近代化の名のもとにおいてなされた，朝鮮総督府への土地集中とその土地の日本人への廉価払下げ，それに伴う朝鮮人の小作人への転落と流民化，朝鮮総督府による専売制とその利益の独占，朝鮮人の経済活動の制約などが述べられている。

III－1「独立運動の強化」は，本文が7．3ページの分量であるが，そのうち朝鮮総督府の弾圧政策や経済的搾取については3ページ費やされ，残りはすべて独立運動にかかわることがらが記述されている。すなわち，「義兵戦争の持続」「結社を通した独立運動」「独立運動基地の建設」「海外各地での独立運動」の見出しのもとに，独立運動の諸形態が説明される。挿入されている資料や写真も独立運動に関するものが選ばれており，資料として「大韓光復会会員の誓約文」，写真は「満州の独立運動基地」と「独立義援金証書（大韓人国民会発行）」が掲げられている。

「大韓光復会会員の誓約文」の内容は，

吾人は大韓の独立した国権を光復するために，吾人の生命を犠牲に提供することはもちろん，吾人が一生の目的を達成できない時は子々孫々が継承して讐敵日本を完全に駆逐して国権を光復するまで絶対変わらないことを天地神明に誓う。

というものである。

資料中には「讐敵日本」の如き語も見受けられるが，この単元の教育目標はそんなことよりも，困難な条件下において粘り強く独立運動を続けた先人たちの苦労を理解させ，韓民族としての矜持を生徒たちにもたせることにあるようである。この単元の「学習問題」に対応

*1韓国語では，自国にかかわる物事を「われわれの……」と表現することがある。ここではハングルを指す。

する「学習整理」は以下のようにまとめられている。

学習整理

1．日帝は武力を前に立ててわが国の国権を強奪し，朝鮮総督府を設置して植民統治をおこなった。

2．わが民族は日帝の憲兵警察統治下で過酷な弾圧を受け，土地と資源の収奪等経済的搾取を受けた。

3．日帝の武断統治下でも我が民族は義兵闘争を続けて展開し，秘密結社を通した独立運動をうむことなく展開していった。

4．満州と沿海州では武装独立軍活動，救国教育活動，独立運動基地の建設など独立運動が活発に展開され，アメリカでは大韓人国民会を中心に，日本では留学生たちが中心になって，愛国独立思想を鼓舞した。(P119)

二．3・1運動

続くIII－2は「3・1運動」である。3・1運動は3・1独立運動とも呼ばれ，「朝鮮近代史上最大の反日独立運動」*2と位置付けられるものである。そしてこれ以後における独立のための諸々の運動はすべて3・1運動の精神を継承したものとされているのである。この単元の学習概要では，「挙族的」と3・1運動を形容する。

学習概要

わが民族は日帝の武断統治によるひどい弾圧を受けたが，これに屈しないで，奪われた主権を取り返すために独立運動を根気強く展開した。

このような動きのひとつとして，日本の東京で留学生たちが2・8独立宣言を行ない，これを契機にしてついに1919年に挙族的な3・1運動が起こるようになった。

この後，民族運動は新たな段階に入り，民族史の伝統性を受け継いだ大韓民国臨時政府が樹立された。臨時政府は国内外の独立運動をひとつに統一し，より積極的に対日抗戦をくりひろげた。

学習問題

1．挙族的独立運動である3・1運動はどのように起こったか？

2．3・1運動はどのように展開され，その歴史的意義は何か？

*2『朝鮮を知る辞典』(伊藤亜人・木村益夫・梶村秀樹・武田幸男監修，1986年，平凡社)

3．大韓民国臨時政府はどのように樹立されたか？（P120）

3・1運動は，第一次世界大戦後アメリカ大統領ウィルソンが提唱した平和のための14カ条の原則の中の民族自決主義に触発されて，独立を願う人々によって起こされたものであった。運動は海外にいた朝鮮人たちによって口火がきられ，それが朝鮮内に波及していったのである。海外における運動では，日本の東京にいた留学生の果たした役割が特に大きかったのであるが，日本の教科書には中学校用の教科書はもちろん高等学校の教科書でも何も触れられていない（留学生たちの一連の独立要求の動き，なかんずく3・1運動に起爆剤的効果を与えた1919年の2・8独立宣言等はすべて日本国内でなされた出来事であるから狭義の「日本史」教科書であっても触れられて然るべきでなかろうか*3)。

3・1運動直前の状況について以下のように述べている。

3・1運動の胎動

第1次世界大戦が連合国の勝利に終わる頃，民族自決主義に立脚した平和原則がアメリカ大統領ウィルソンによって提唱された。民族自決主義は，帝国主義強大国の支配を受けていた弱小民族に大きな影響を及ぼした。

日本の東京の留学生たちは，このような世界史の流れを祖国光復の機会と考えて，独立宣言書と決議文を発表した（1919.2.8)。

2・8独立宣言は3・1運動の導火線の役割をした。すでに1918年末から国内の民族指導者たちは，国内外の情勢を注視しながら挙族的な独立運動を推進していたが，東京の2・8独立宣言はこのような動きを促進させた。(P121)

このような留学生たちの動きが，朝鮮内においては，天道教，キリスト教，仏教の三宗教団体から選出された33名の民族指導者による独立宣言書の署名にはじまる3・1運動へと続いていったのである。1919年3月1日，ソウルからはじまった「独立万歳」と叫びながら行われた示威運動は，またたくうちに全国各地に広がっていった。

3・1運動に対して，日本は内地から六個大隊の兵に加えて多数の憲兵をも派遣して鎮圧に努めたが，各地で鎮圧に伴う残酷な事件が続発した。たまたま英米人の目にとまってしまっ

*3東京書籍『新しい歴史』1994年版では，「第八章　二度の世界大戦と日本」の「1第一次世界大戦とアジア」において，「アジアの民族運動」の見出しのもとにインドのガンジーの独立運動，中国の五・四運動とともに3・1独立運動が取り上げられている。ソウル市内におけるデモ行進の写真と朝鮮半島に参加者数を示すドットを落とした地図が添えられている。「運動は日本の軍隊と警察によって鎮圧された」と記すのみで，「鎮圧」の実態や3・1運動前後の事情の説明はない。

*4姜在彦　『日本による朝鮮支配の40年』（1992年，朝日文庫）の第二章2　三・一運動

たために世界中に知られることになった事件が堤岩里の虐殺事件であるが，この事件も一連の虐殺事件のほんの一部であるという*4。教科書では，「3・1運動時，万歳を叫ぶ市民たち」の写真と「公約3章」が参考のために掲げられているが，さらに本文とは別に「学習の助け文」として堤岩里事件について1ページ余り費やしている。

（学習の助けの文）

堤岩里虐殺事件

ソウルから45マイル離れた水原（華城郡）堤岩里では，日本軍が到着してすべてのキリスト教徒達を教会に集めるよう命令した。彼らが教会に集まるや，日本軍は彼らに機関銃を乱射して35名を虐殺した。このような事実は，英国とアメリカの領事館職員の調査で確認され，総督長谷川をはじめ日本当局者たちもこれを是認した。

堤岩里近くにある他の村も焼かれたが，炎に包まれた家から飛び出てきた住民たちは日本軍の射撃と剣によって倒れた。報道によれば，このように焼かれた村が9カ村で，その外にも多くの教会が破壊されたという事である。平壌に居住していたアメリカ人宣教師ロバート牧師によれば，定州では100名を越える韓国人が銃殺されたり殴り殺されたりしたという。

10歳にしかならない幼い少女たちと婦女子たち，そして女学生たちが，自分の祖国のために情熱をほとばしらせて独立を叫んだという単純な罪目で恥辱的な取り扱いを受け，罪刑を受け，また拷問された。幼い少女たちが突き飛ばされ，残酷にも殴られた。7歳以下の幼い少女たち300名がすでに殺害された事で知られる。トゥィン牧師の証言によれば，1歳の幼い赤ん坊が肩に銃を受けて死亡したという。日本軍は死にかけている人間にも肩にみな銃を発射し，逃亡する人間は追いかけていって帯剣で刺して倒した。

示威が始った後3ヶ月の間に3万名を越える韓国人が殺されたり負傷させられた。独立運動を鎮圧するという美名のもと，すべての文明国の法を放棄する事によって日本の軍事独裁は文明人の尊敬をより以上受けることができない事を立証した。

＜ケンダル，韓国独立運動の真相＞

(P123)

これが，最近わが国でも比較的知られるようになった堤岩里虐殺事件の顛末である。3・1独立運動を鎮圧する過程で引き起こされた虐殺事件だけでなく，運動の様相については日

*5注4参照。なお，山川出版社，山省堂発行の高等学校用日本史教科書は，3・1運動について言及することが極端に少なく，1ないし2行で説明しているにすぎない(分量的には中学校の教科書の記述よりも少ない)。

本の中学校の教科書ばかりではなく高等学校の日本史教科書でもまったく触れていない*5。

韓国の教科書の記述の中で日本政府や朝鮮総督府，軍隊，警察の行為について「過酷な弾圧」「無差別虐殺」と表現されることはしばしば見受けられるが，このように具体的な事例をあげて解説することはまれである。

しかし，３・１運動の単元で重要視されていることがらは，植民地支配者として過酷な弾圧をおこなう日本の姿を強調することではない。それは，後に大韓民国として独立を達成するに至るまでのあいだに，種々様々な形で繰り広げられた独立運動史上において，この３・１運動がいかなる意義を持っているかということを学ばさせることにあるのではないか，と考える。韓国人にとっての「国史」なのだから，それはあまりにも当然なことがらである。ところが日本人がかかる記述に接する時，韓国における反日教育の実例としてむやみに目くじらを立てることになるのだが，それは，上に述べたように，当たっているとはいえないのである。

それでは，３・１運動の意義はいかなるものとされているのであろうか。教科書によれば，３・１運動の意義は

イ．日帝の弾圧にも屈することのない民族の力量を見せてくれた挙族的な独立運動であったこと

ロ．独立の意志を全世界に示したこと

ハ．従来ばらばらであった独立闘争が，この運動を契機として全民族的なものとなっていったこと

ニ．民族に自覚と力を与え，以後の運動の精神的拠り所となったこと

にあるとされている。このような味方は，３・１運動についての学習整理で次のようにまとめていることからも首肯できるであろう。

学習整理

1．大規模の独立運動を準備していたわが民族の指導者たちと学生たちは，世界情勢の変化と２・８独立宣言等に力を得て３・１運動をおこした。

2．３・１運動は宗教団体と学生組織が中心になり，全国民が加担して挙族的な民族独立に展開された。

3．３・１運動はわが民族の独立の意志と力量を誇示し，以後独立運動が組織的で体系的に展開される契機をつくった。(P127)

３・１運動後，独立運動はよりいっそう組織的に且つ強力に推し進められることとなり，各地に臨時政府がたてられたが，ついには上海において，大韓民国臨時政府と称する亡命政府が諸臨時政府を統合する形で樹立されるにいたった。この臨時政府について，以下のよう

に述べられている。

大韓民国臨時政府の樹立と活動

3・1運動は，わが民族の独立運動に貴重な教訓を与えた。この時までいろいろな所で主導してきた独立闘争をより組織的に且つ積極的に展開するためには，われわれの政府が必要だということを悟るようになった。このような要求に呼応して国内外の各地に臨時政府が樹立された。

しかし日時が過ぎて，各地に立てられた臨時政府をひとつに統合することが効果的であるという考えから，上海の大韓民国臨時政府に統合し，初代大統領に李承晩を選出した(1919)。

当時の上海は日帝の影響力が及ばない所であるばかりではなく，世界の諸国に対する外交活動を展開するにも便利な所であったことによって，独立闘争を行う場合にはふさわしい地域であった。

大韓民国臨時政府はわが民族の独立の意志をひとつにまとめ民主主義の原則にしたがって樹立された政府であった。たとえ海外に据えられた臨時政府ではあったが，全民族の支持を受けて，国内外の同胞に希望と勇気を与えながら祖国が光復される日まで活動を続けた。(P125)

3・1運動の精神を受け継ぎ発展させた具体的な動きとして大韓民国臨時政府を位置付けているが，臨時政府に関する資料も本文に添えられている。すなわち，「大韓民国臨時政府の要員たち」「大韓民国臨時政府の外交宣伝冊子」の二葉の写真，「大韓民国臨時憲章10条」の全文である。

三. 独立運動の発展

独立運動はこれ以後活発に行なわれるが，それは日本による植民地統治が強化されるに比例してますます盛んになっていった。この単元の見出しは，次のようである。一見して明らかなように，次第に活発に，時には過激に運動が展開されていく様子が詳しく述べられている。

植民統治の強化
愛国志士たちの闘争
独立軍の抗争
鳳梧洞・清山里の戦闘
独立軍の再整備
実力養成運動

光州学生抗日運動
韓国光復軍の創設
対日宣戦布告と韓国光復軍の活動

この単元では「学習概要」が次のように概観し，「学習問題」を設定している。

学習概要

挙族的且つ全国的に起こった３・１運動は，日帝の野蛮的な武力弾圧によって失敗に帰した。以後，日帝はより悪辣な方法でわが民族を弾圧した。このような中でもわが民族は国内外で多様に独立闘争を展開していった。すなわち，国内外で結社活動と愛国志士たちの義挙が相次ぎ，満州と沿海州地域では武装独立軍が活躍した。その後，武装独立軍は韓国光復軍に整備され，祖国の光復のために各地で日本軍と抗戦した。一方，国内では産業，教育活動を通じて民族の力を養おうとする民族の実力養成運動を粘り強く展開した。

学習問題

１．日帝の植民統治政策は３・１運動以後どのように変化したか。
２．満洲と沿海州での武装独立運動はどのように展開されたのか。
３．３・１運動以後国内での独立運動はどのように展開されたか。
４．韓国光復軍の活動はどのようであり，その歴史的意義は何か。(P128)

見出しをみてもわかるように，朝鮮内外における独立運動の叙述に多くのページが費やされており，日本について正面から論じた部分は少ない。その中で日本の行為について比較的詳しく触れられているのは「植民統治の強化」の項である。挿図も「群山港での米の搬出」とキャプションのついた写真である。

３・１運動に衝撃を受けた朝鮮総督府は，従来の武断的統治からいわゆる文化統治へと統治方法を転換するが*6，その内容については具体的な例は紹介されていない。ただそのような政策は，民族分断，経済的収奪のためのまやかしにすぎないと断言されている。３・１運動後一時的に穏やかになったという朝鮮の統治政策も，満州事変以後の軍国主義の高まりとと

*6朝鮮総督府の「文化統治」にかぎらず，日本が朝鮮においておこなったことは，「総て善意から出たことであって，イギリスやフランスがおこなった植民地政策とは大きく異なる」という説があるが（例えば最近のものでは，豊田有垣『いいかげんにしろ韓国』，祥伝社，1994．３，第四省「歪みを増大する対日報道」の「日本の朝鮮統治を支えた善意の押し売り」の項など），韓国の教科書ではその様な見方には一顧だにはらわれていない。

もに，そして大陸への侵略が本格化する中で，以前にもまして強圧的なものに変わっていく*7。少し引用が長くなるがその間の事情を見てみよう。

植民統治の強化

日帝は３・１運動を通じ韓民族を武力でもって支配することができないということを悟り，彼らの植民統治政策を変えていった。しかし，彼らが押し立てた所謂文化統治というものは，わが民族を離間させ分裂をはかり，経済的収奪を強化するためのまやかしであった。これは，より狡猾な植民統治方法で，日帝は警察力を増強させ更に一層わが民族を弾圧した。

３・１運動が起こった時期と前後して日本の食料事情が悪化するや，日本各地では米不足による暴動が起こった。そこで日本は不足した米問題を解決するために，わが国で産米増殖計画という美名もと，米の収奪を強行した。

産米増殖計画は文字どおりにはならなかったが，日帝の米収奪は，目標通りに遂行された。そのようにしてわが民族は増産量を超過して収奪された。したがって，わが農民たちは，多くの米を生産しながらも飢えさせられた。よって日帝は，わが国の食料不足を補うために，満州から粟，黍，大豆等の雑穀を入れてきたが，わが民族は飢えを逃れることが困難であった。

一方，わが国は日帝の食料供給地と商品市場として利用され，工業施設が作られなかった。しかし1930年代にさしかかると，大陸侵略を本格化しようとする日帝の野卑な欲望があらわになり，このような状況は変わった。満州事変を契機に，わが国は日帝の兵站基地になっていった。そうして，わが国に金属・機械・化学工業を主とする重工業施設が作られ，このような施設を支援するための発電施設と交通・運輸施設が拡張された。

中日戦争が起こるとともに日帝の兵站基地化政策がより強化され，大陸と近い北韓地帯に重工業の工場が建設された。

太平洋戦争以後，日帝は自国の生産力だけをもってしては軍需物資を調達することがますます困難になると，わが国から鉄，石炭，錫，黒船，マグネサイト等の地下資源をやたらに収奪していった。軍需物資の生産のために工場が大きくなればなるほど，わが民族は廉い賃金に苦しみながらますます酷使を受けねばならなかった。(P130)

収奪が激しくなってからはいうにおよばず「文化統治」の時期にあっても，朝鮮の内外で

*7 15年戦争の遂行のために朝鮮がどのような扱いを受けたかについて，日本の中学校用の教科書では全く触れられていない。高等学校の場合，三省堂『高校日本史』では朝鮮と台湾における「皇民科政策」「徴兵制」と朝鮮における「創氏改名」について説明がなされているが，山川出版『新詳説日本史』ではまったく触れられていない。

は独立運動が相次いだ。

「愛国志士たちの闘争」では，結社を組織して植民地統治に果敢に抵抗したことが述べられている。その具体的な内容は，東洋拓殖株式会社の爆破，金相玉による鍾路警察署への爆弾投擲，李奉昌の天皇暗殺未遂事件，尹奉吉が上海虹口公園で爆弾を投擲して日本の陸海軍の要人並びに駐中公使等を死傷させた事件であるが，いずれも「義挙」と称される個人的テロである。が，個人的テロとはいっても，背後には義烈団あるいは韓人愛国団等の結社が存在していたのであって*8，決して一部の跳ね上がり分子が過激な行動に走ったという性格のものではない。したがって教科書も「このような義挙は，わが民族の強い愛国精神の発露として，国内外の同胞に感動を与えたばかりでなく，中国人にも大きな感銘を与えた」と評価されている*9。

彼らの行動に対する評価はともあれ，日本の教科書では中学校，高校ともにまったく触れられていない。しかし，韓国においては，このような愛国志士と呼ばれる人々の行動については，国史の教科書のみならず国語などの教材としても生徒に教えられているのである*10。日本の教科書では，韓国人による愛国詩や語録まで教える必要性はないと考えるが，日本国内で決行された「義挙」をまったく黙殺してしまうことは好ましくないのではないか。

日本に対する独立運動，特に軍事的な方面での運動は，どれくらい組織的に行動できるかが運動の成否に大きく関係してくる。日本からの独立が民族の願望であるならば，運動も民族に基盤を据えたものでなければならなかった。事実，独立のための軍事行動は相当大規模に行われ，時には日本軍に打撃を与えさえしたのである。しかし，次第に日本軍に押さえこまれ，その活動は中国との国境地帯や沿海州に限定されるようになり，さらには独立軍は中国本土に移動せざるをえなくなった。

独立軍が奮闘して日本軍に打撃を与えた例として，教科書では鳳梧洞と青山里で行われた二つの戦闘を取り上げている。この二つの戦闘は1920年に行われたもので，韓末の義兵闘争以来久々の大規模な軍事行動であった。特に青山里では3000名の兵員を集結させた独立軍が10月20日から23日にかけて大小10回以上の戦闘を行ない日本軍に大打撃を与え，独立運動を進める上で軍事的な路線をとることの正しさを示すとともに，民族の意志を一つにまとめていく原動力にもなった。また，上海の臨時政府の威信を高めることともなった。

---

*8キム・チャンス『抗日義烈闘争史』（独立運動史教養叢書16，独立記念館韓国独立運動史研究所，1991.9）

*9注8『抗日義烈闘争史』169頁には，李奉昌の天皇暗殺未遂事件について，中国国民党政府機関紙の国民日報に「韓人李奉昌狙撃日皇不幸不中」と掲載されたことを述べている。

*10国語の教材としても，独立運動に尽力した人々の言動が取り上げられている。

また，独立記念館（大韓民国忠清南道所在）には，広大な敷地内に李舜臣をはじめ総計56名の愛国詩と語録の石碑が配置されている。独立記念館という特殊な場であることを考えれば，このような詩や語録が一般人のあいだに広く受け入れられているか否かは疑問であるが，これまでに私が会ったごく少数の韓国人留学生や韓国の公務員（文化財行政関係社が中心）は，愛国詩や語録の一部をよく知っているようであった。

独立軍の戦果が目立ったものになると，日本軍による報復も激しくなり独立軍は沿海州に移動し，その後独立軍は再整備されていった。教科書は「独立軍の再整備」として，中国軍との連合，韓国光復軍への統治について述べている。

軍事的行動のみではなく，経済的・社会的な面でも日本の支配に抵抗する運動が展開された。それについては，「実力養成運動」「光州学生抗日運動」として取り上げられている。

前者では，産業育成を通じて民族の力を養う目的で実施された物産奨励（自給自足・消費節約・国産品愛用）と新幹会（社会主義者と民族主義者たちとの提携による民族統一戦線）が紹介されている。

後者は，光州学生事件とも呼ばれる。1929年11月３日，屈辱的な植民統治に対する不満が高まりつつあった光州高普生と日本人中学生との衝突に端を発するものだが，反日示威運動はまたたくうちに全国に広がっていき，３・１運動後の反日示威運動としては最大のものといわれる*11。

一方，海外にあった大韓民国臨時政府についてみると，日中戦争で中国国民党政府が重慶に移ったのに伴い，臨時政府も同地に移っていった。そうして韓国光復軍が創設され，日本に宣戦布告をおこなった。「韓国光復軍の創設」「対日宣戦布告と韓国光復軍の活動」の見出しのもと，それらの事実が述べられている。また当該ページには，「韓国独立軍の訓練の様子」「韓国光復軍」の写真および「韓国光復軍の配置状況（1944年末）」を示す地図，「ポツダム会談」の写真が添えられている。

連合軍と協同して戦ううちに，戦後の韓国の独立が約束されることとなるのである。その動きを教科書はつぎのようにのべている。

対日宣戦布告と韓国光復軍の活動

中日戦争と太平洋戦争を契機に，わが民族の抗日独立闘争は新たな転換期を迎えるようになった。

臨時政府は日帝が太平洋戦争を起すや，即刻日本に宣戦布告を行ない，連合軍と手を握って抗日独立戦争に立ち上がった。この時，臨時政府は遠く印度，ミャンマー（ビルマ）戦線にまで韓国光復軍を派遣し，英国軍とともに日本軍を相手にして戦った。

一方，韓国光復軍は中国でアメリカ軍から特殊訓練を受けて国内進入作戦を計画してい

*11運動の発端は，日本人中学生が朝鮮人女学生に向かって侮辱的発現をしたことにあるというが（『朝鮮を知る辞典』），国史教科書や『増補새国史事典』（李弘稙編，教学社）あるいは『独立記念館展示品図録』（独立記念館韓国独立運動史研究所）等では，騒動のきっかけとなった事件については言及していない。日本人中学生による朝鮮人女学生の侮辱よりは，この事件を契機に全国的な運動が展開されたという独立運動史上の意義を強調しているようである。

た。

また，アメリカに住んでいたわが同胞たちも，義勇軍としてアメリカの軍隊に参加し独立戦争に立ちもした。

わが民族の独立闘争は第二次世界大戦が進行するあいだにいろいろの国に知られた。そうして世界列強はわが民族の独立問題に関心を持つようになり，連合国首脳が集まったカイロ会談でわが民族の独立を約束し(1943)，その後ポツダム宣言でわれわれの独立を確約した（1945)。

(P138)

この単元の「学習整理」は以下のようである。

学習整理

1．３・１運動以後，日帝はいわゆる文化統治というものを押し立ててわが民族の分裂と離間をもくろんで，食料収奪等経済的搾取を強化した。

2．満州と沿海州では武装独立軍の活動が活発に展開され，鳳梧洞戦闘の勝利，青山里大捷等の戦果をあげた。

3．３・１運動以後，国内で展開された独立運動は学生たちによって６・10万歳運動，光州学生抗日運動に受け継がれ，物産奨励運動と新幹会運動等の社会・経済的運動も展開された。

4．大韓民国臨時政府によって組織された韓国光復軍は，中国，英国軍と合流して日本軍と戦い，国内進入作戦を計画して準備した。

5．大韓民国臨時政府と韓国光復軍の独立戦争は，国際的にわが民族の独立を約束する力になった。(P139)

四．民族文化の守護運動

独立運動は，示威運動や軍事行動だけではなく，いろいろな面で展開されたが，その一つに民族文化の伝統を守ろうとする動きもあった。特に，日本によって「内鮮一体化」「皇民化政策」が進められて朝鮮独自の言語や文化が否定されると，その動きは一段と強くなった。

「４．民族文化の守護運動」ではまさにその様な動きについて語られている。この単元には，「日帝の民族抹殺政策」「言論活動」「国学研究」「民族教育運動」「宗教運動」「近代文学活動」「芸術活動」の見出しが立てられている。

この単元の学習概要と学習問題は以下のように記述されている。

学習概要

わが民族の伝統文化は，日帝の大陸侵略が本格化するにつれ抹殺される危機にあった。そこで心ある民族指導者たちはこれを克服するために努力した。すなわち，国学，言論，教育，宗教，文学，芸術活動等を通じて主体意識と民族文化にたいする矜持を活かすことに力をいれた。

言論機関は民衆を啓蒙して独立意識を鼓吹し，教育者たちは民族の将来のため民族教育運動に力をいれた。そして民族精神を呼び起こし，われわれの言葉とわれわれの文字を守ろうとする努力は国語研究としてあらわれた。一方，文学と芸術の分野でも民族の感情をよみがえらせようとする運動が展開され民族意識を高揚した。

学習問題

1．日帝が大陸侵略を敢行していた時期の植民地支配政策はどのように推進されたか。
2．民族文化を守護するための闘争はどのような性格を帯びていたか。
3．国語と国史の研究活動はどのように展開されたか。
4．文学と芸術分野で民族の抵抗意識はどのようにあらわれたか。(P140)

日本の植民地支配に直接関係してくるのは，「日帝の民族抹殺政策」であろう。
「日帝の民族抹殺政策」では，

わが国は日帝の大陸侵略が敢行されるうちに彼らの兵站基地になっていった。また，日帝の侵略戦争に利用され，わが民族と民族文化も抹殺される危機におかれるようになった。

いわゆる内鮮一体，皇国臣民化等の体裁のいい口実によって，学校ではわれわれの言葉の使用が禁止され，日本語の使用を強要されて，われわれの歴史についての教育も禁止された。また，ハングルで書かれた新聞もすべて廃刊された。

一方，朝鮮語学会事件でハングル学者が逮捕され，震檀学会が解散され，国語と国史についての研究も禁止された。そしてわが民族は各地に建てられた日本の神社に参拝するよう強要され，またわれわれの姓と名前を日本式に改めるよう強要された。

続いて，太平洋戦争中には戦争に必要な物資と人力が大いに不足するや，われわれの青・壮年たちが強制で徴用され鉱山や工場で酷使され，学徒志願兵制と徴兵制の実施によりわが青年学生たちが各地の前線に引っ張られた。のみならず，女性たちまでも挺身隊という名前で侵略戦争の犠牲になった。このように，われわれの物資のみならず人力までも彼らの侵略戦争に強制で動員された。(P141～142)

と述べられている。「内鮮一体」「皇国臣民化」による日本語の強制と朝鮮語の使用禁止，神

社参拝の強制，創氏改名，強制徴用，女子挺身隊など今日でも日韓両国のあいだでしばしば問題になることがらが列挙されている。

この部分を日本の中学校用歴史教科書（東京書籍『新しい社会　歴史』1944年版）と比較してみると，「第8章二度の世界大戦と日本」の「4　第二次世界大戦」の中で，「戦時下の朝鮮人」としてほぼ1ページのうち半分を同化政策の強化，日本語使用と神社参拝の強制，創氏改名，朝鮮人や中国人の強制連行と酷使についての説明に当てている。残る半ページは「朝鮮神宮と神社に参拝させられる朝鮮の学生たち」「朝鮮人『日本兵』」の3葉の写真とその説明文に当てられている。

東京書籍版でみる限り，現在の中学生は以前に比べるとかなり詳しく教えられているといえそうである。しかし，未だ十分に教えられているとは言いがたいように思われるのである。たとえば，韓国の教科書の場合，「徴用され酷使されるわが同胞たち」とキャプションがつけられた写真が添えられているが，サーベルを下げ制服を着用した数名の人物に監督されながら土木作業に従事する朝鮮人を写したこの写真は，縦8行分，幅は版面一杯の大きさである。写真についての詳しい説明文はないが，徴用労働の実態を十分に物語っている。特に，後述する強制労働の体験談の記事とあわせて見るならば，その酷使ぶりは十分に想像しうる，韓国の教科書の記述や編集のしかたに比べ，日本の場合は相当程度に穏やかな記述になっているのである。

また，「女子挺身隊」について，韓国の教科書では詳しい内容は記述していないが，「女性たちまでも挺身隊という名前で侵略戦争の犠牲になった」と述べられていて，いわゆる従軍慰安婦を想像させる記述になっている。「女子挺身隊」と「従軍慰安婦」とは別物であって，両者を混同しているかの如き韓国側の論調は受け入れられないという主張が日本側にはあるようだが*12，そうであるならなおさらこの問題について日本側でも態度を明らかにしておかなくてはならないし，教育の場での扱いかたについても関係者のあいだでの見解を統一しておく必要があるだろう。

この単元には，「学習の助けの文」として約1ページ分の資料が掲載されている。

（学習の助けの文）

日帝の徴用

日帝は太平洋戦争が勃発した後，戦争に必要な物資と人力を韓国から収奪していった。1945年までに国内での韓国人強制動員は480万名に達し，日本に徴用されていった韓国人は113万名にのぼった。徴用された韓国人達は主に炭鉱，発電所，鉄道，軍需工場，飛行場等で強

*12豊田有垣『いいかげんにしろ韓国』など

制労働に苦しめられた。

徴用され連行されていった労働者の経験談

頭には虱がうじゃうじゃとたかり，背中の傷は膿んでますますひどくなっていった。ここでは，朝鮮語を使うと一回の食事を減らされてしまった。飯といっても，大豆を蒸してアンナン米と混ぜたものだった。汁は塩汁で，実がないものだった。坑内で喉が渇き坑内の澄んだ水を飲むとひどく下痢をした。けれども，朝6時から夜11時まで働かされた。

酒やたばこ，薬品の配給は，組で横取りして腹を肥やしていた。当時，一日の賃金は2円35銭だが，合宿所の費用に1円50銭を差し引かれた。(中略)

たくさんの人々が死んだ。原田組では，ソウルから来た教養のある家族の子供が逃亡して捕まり，あまりにひどく鞭打たれ，気が狂ってしまった。

集団で脱出した人々が，凍結した川を知らないで渡って，水に溺れて死んだ例が多かった。春になり雪がとけると，その死体が石狩川のほとりの柳の木の枝に引っ掛かっているのがしばしば発見された。

1943年12月18日だった。賃金1千いくらか支払いが遅れたのだが，コダルに到着したらやるといったのに支払ってくれなかった。原田組に行って督促してみたら，300 円を家族に送金してやったと言った。しかし3ヶ月待っても，朝鮮からは金を受け取ったという知らせがこなかった。……(以下略)……

＜金サテン，日帝下人力収奪史＞
(P147～P148)

「言論活動」では，3・1運動後の日本による懐柔策の一環として認可された朝鮮日報，東亜日報などがハングルの普及と啓蒙運動に寄与したこと，しかし，しばしば記事の削除や発刊停止，言論人の拘束などの弾圧を受けたこと，そして1940年にはすべての朝鮮語の新聞が廃刊に追い込まれてしまったことを述べている。そして，「検閲で削除された新聞」の写真を添えている。

「国学研究」以下は，民族意識に根ざす文化闘争として位置付けられ，ハングル辞典の編纂やハングルの日の制定，国史研究，啓蒙活動の一環としての講習会の開設，私立学校の開設，民族運動において宗教が果たした役割などについて述べている。

この単元の「学習整理」は以下のとおりでである。

学習整理

1．日帝は侵略戦争を拡大しながらわが民族と民族文化を抹殺しようとする民族抹殺政

策を敢行した。

2．民族文化の伝統を守り，これを創造的に発展させるための民族文化守護運動は，日帝の弾圧にもかかわらず独立運動の一環として展開された。

3．国語と国史等を研究し，民族意識を鼓吹しようとする国学運動が，朝鮮語学会の学者たちと民族主義の史学者たちによって推進された。

4．文人たちと芸術家たちは，わが民族の思想と感情を表現しながら，民族意識と抵抗意識を鼓吹しようと努力した。

(P148)

五．ま　と　め

以上，韓国の中学校国史教科書の中にみる近代日本の姿を検討した。日韓関係を歴史的に見るとき，近代のそれはもっとも深刻な問題をはらんでいる。「日韓併合」時の事情を直接に見聞きした人はもはや生存していないだろうが，植民地時代を体験した人はまだ多数生存しているし，日本の政策によって直接間接的に被害を受けた人も多く生存しているからである。にもかかわらず，日本は国としての責任を必ずしも十分に明らかにしてきたとは言いがたいし，個人としても過去の日本人の行ないについてあえて知ろうとしない，あるいは知らせようとはしてこなかったのではなかろうか。

ところで，韓国の中学校国史科用教科書の近代の部分を読んで感じたことは，前回にも述べたごとく，予想していたより「反日教育」の色合いが薄いということであった。いや，反日意識を注入する意図はほとんどないといってもよいのではないかと思ったほどである。閔妃暗殺事件や乙巳条約締結の事情，朝鮮総督府の残酷な統治，徴用で酷使された人々の話等を学んできた中学生が，それによって親日的になるはずがないことはいうまでもない。しかし，それらのことがらがすべて事実であるならば，反日教育を目指すものとは言えないであろう。

それならば，韓国の国史教育が目指しているものはいったい何であろうか。過去のことはいざ知らず，現行の教科書を見る限りでは，反日教育なんぞを目指していないことは明らかである。韓国の歴史教科書を一見したときに目をひくことは，「わが民族」「民族意識」「わが民族の……」という表現が実に多いことではなかろうか。また，「日帝」の悪辣な行為を述べる時も，その「悪辣さ」を強調するというよりは，むしろそのような悪辣な行為に苦しむ朝鮮人や過酷な弾圧を堪え忍ぶ朝鮮人，あるいは度重なる弾圧にも屈することなく民族の独立のためにあらゆる分野において戦う朝鮮人＝現在の韓国人の父祖たち，の姿を叙述することに目的があるように読み取れるのである。とするならば，国史教育の目的は，いたずらに反日熱を煽ることにあるのではなく，自分たちの父や母，祖父や祖母たちが現在の大韓民国という独立国を如何にしてつくりあげてきたのか，その先人たちの苦労を正しく理解して，未

来に向かってさらなる国の発展を受け継いでいく後継者の養成にあるのだ，と言えよう。その際の拠り所の一つとして，古くから栄えた独自の文化的伝統，幾度も外部からの侵略を被りながらも決して失われることのなかった民族意識が強調されるのである。

韓国の歴史教育の目標がそのようなものであるとしても，われわれはまた別の読み取りかたをしなければならないだろう。つまり，韓国の歴史教科書に描かれた近代の日本像は，お世辞にも美しいとは言えないからである。アジアでは希なことに欧米諸国の植民地にされることを免れた日本，封建体制からいちはやく近代化に成功して資本主義国化した日本は，たしかに世界に誇れるものであろう。しかし，上からの急激な近代化を行うにあたって犠牲にされた零細農家や小作人，あるいは都市の労働者の存在は決して忘れられてはならないし，それ以上に日本によって植民地されたり侵略された国々の存在を忘れてはならない。

他国の歴史教科書は「その国の歴史教科書」なのであって，そこから日本の歴史を読み取ろうとすることはもともと無理なことなのであるが，韓国の場合，その国の歴史の歩みが日本のそれと密接に関係しあっているので，近代日本の歩みを知る上でいろいろと考えなければならない問題を提供してくれるのである。

日本が朝鮮でおこなった芳しくない行為について，それをなかったものとしてしまうことは不可能である。それゆえ，日本の行為が日本の近代化を遂行していく上でどのような意味があったのか，十分に説明できるようにしなければならない。あるいは，100年前は力が支配する時代だったのだから日本の行為は何等弁明を要すものではないし，朝鮮人の徴用についても，当時の彼らは「日本人」だったのであるから国家総動員法の下に御国のために尽くし

---

*13当時の朝鮮が『植民地』ではなくして，「日韓併合」によって併合されたうえは日本の一部なのだという主張は前掲豊田有恒書で展開され，徴用も著者の家族が挺身隊として工場で働いたことと同じであると論じられている。

また，上坂冬子『思い出すだに腹が立つ』（光文社，1993）の「3．再び従軍慰安婦問題について」においても「徴用」を「強制連行」というのは「言葉に主観が入りすぎている」と言い，「一般に戦時中労働力として徴用された女性は女子挺身隊と名づけられていた」と述べている。上坂氏の言われる如く「特殊な思い込みを前提とした」用語は避けるべきだという点には同感である。しかしながら，上坂氏の主張は，ややわかりにくい点があるが，内地の日本人に対して実施された「徴用」と朝鮮人に対して実施された「徴用」が同じ性格のものだというように受け取れる点については賛成いたしかねる。もっとも氏は，当時韓国という国はなく，朝鮮人も日本人として扱われていたと主張されている（したがった朝鮮人慰安婦は存在せず，存在するのは「元日本人」慰安婦だと主張される）ので，氏の話はそれなりに筋がとおっている。しかし，「日韓併合」はそれなりに国際法上の手続きをふんでなされたもので合法的であるという論拠に立つ人たちも，朝鮮総督府の支配下にあった朝鮮人たちが，法的にも社会的にもまったく日本人と同等の権利を有しかつ平等に扱われていたことを論証していないのである。

以上二氏の著書はいずれも新書版の大きさで，専門家による学術論文ではない。一般読者を対象としたものである。しかし，売れ行きは知らないが，書店での扱いをみれば相当売れているようである。したがって，一般国民に与える影響力という点では，学術論文の到底及ぶものでないことが想像される。また，このような書物が，一定度読者に支持されている点に着目するならば，著者たちの主張に共感をおぼえ，また日頃その様に考えている人たちも多いということを物語っていると言えよう。

た内地の日本人と同じ立場だったのであって，補償はおろか謝罪すら必要ないというむきがあるかもしれない。*13

確かに力が支配する時代があったことは事実であるし，現在も例外ではない。しかし，過去の事実の存在を認めることと，過去の事実を無批判に肯定することとは峻別しなければならない。無論,「四十数年平和を満喫した人間の基準」*14でのみ過去を糾弾してはならないが,「当時はそういう時代だったのだ」と，その時点その時点においていつも現状肯定するだけでは，なんら問題の解決にはならないし人間の進歩発展もありえない。

韓国の国史科の教科書をとおして私が見た近代の日本像は，現代の日本人が未だ確固たる視点で近代日本を見つめなおしていないことに起因する，蜃気楼の如きものであった。感情的な議論や「居直り史観」的発想ではない，実証的な研究の上に構築された近代史像に基づく歴史教育*15がなされることを切望する次第である。

---

*14前掲上坂著『思い出すだに腹が立つ』の「2．従軍慰安婦問題について」

*15勿論，近代史を専攻する研究者の手によって実証的な研究はなされているし，従軍慰安婦や強制連行の問題についても一般市民向けの書物が数多く発売されてはいる。けれども，聞いて耳が痛い話や辛気臭い話よりも「居直り史観」的な書物のほうが大衆には心地好く受け入れられやすい。また，表立って話されるものではないが，戦時中の「武勇談」的な話の中で語られる略奪，放火，殺人，強姦等の持つ影響力は今日もなお無視できないのではないかと思う。実際，私も高校生だったころ教師から，中国において日本軍の威光を笠に着て少々羽目を外した中国人を，クリークの中を追い回し苦労して種々策略を用いてやっと捉え，その教師自らの軍刀で斬首したという話しを聞かされた経験がある。詳しい話は忘れてしまったが，なぜその中国人を切らねばならなかったのか理解できなかったことだけはいまでも覚えている